

## 山行報告書

受付 No.	96	登山地・ルート	ハヶ岳
目的	歩行トレーニング		
メンバー	大山		
行動記録			

月 日 曜	天候	ポイント地点・所要タイム
7・8・日	雨/曇	浜松＝美濃戸口～美濃戸山荘～赤岳鉱泉～硫黄岳～横岳～ 赤岳～阿弥陀岳 5:30      6:19      7:51      9:29    10:22    11:41    12:58 ～御小屋山～美濃戸口＝浜松 14:46    15:45

記事 目的の成否・状況・問題点(反省)・メンバーの状況・ルートの注意点・自然状況

ハヶ岳SAで仮眠を取って美濃戸口へと向かう。美濃戸へ向かう林道に車で入ってから今回は下山口が違うことを思い出し美濃戸口の駐車場へ戻る。鉱泉までの新緑がきれい。鉱泉を過ぎて赤岩の頭に登る途中から雨が降り出しカッパを着る。2年ぶりに通るルートだが、硫黄山荘を過ぎて稜線に向かう登山道脇に鹿避けの柵が設置されていて、こんな稜線近くにまで鹿の食害がきているのかと驚いた。横岳手前の鎖場で単独の女性が躊躇している下を通過。横岳に抜けると、まさに団体が硫黄岳に向けて下りて行くところで、セーフだった。雨は止んでもガスで視界がない。添杉尾根分岐で休憩した後、危うく普通に添杉尾根に下って行きそうになった(指導標あったのに…)。ガスの中から時折阿弥陀岳が姿を見せる。赤岳への登りでなんかすごい疲れて、阿弥陀岳をどうしようかと考えた。赤岳の山頂では何かのイベントの集団がいて、自分が休憩している横でデモンストレーションを始めて居心地が悪くて早々に撤収。

横岳のあたりを通過している時に、阿弥陀岳の方から人の声が聞こえて何かあったのかと思って足を止めたが、赤岳から下った辺りに学生の集団がいて、彼らが行者小屋とか文三郎道とかにいる仲間に大声で声をかけていた。ちょっと迷惑に思うくらいうるさかった。中岳を越えて阿弥陀岳へ登る。山頂はガスで真っ白。御小屋尾根の方へ下って行くと雨が降り出す。鎖場を越えた後の下りは、足元がガレガレの急斜面をフィクスロープを頼りに下る。樹林帯に入ると下からおじさんらしいグループの音が聞こえるが、ついにその姿を見ることなく御小屋山に至る。御小屋山まで、尾根は一本道だけど、一般の登山ルートなのに標識らしきものが何もなく、少し不安になった。御小屋山から分岐の標識に従い美濃戸口方面へと進路を変え登山口に至る。別荘地内の舗装路には美濃戸口への標識が要所にあり、別荘ウォッチングをしながら駐車場に戻った。

紙面不足の場合は裏面へ

報告者	大山	受付	平成	年	月	日	受付者	
-----	----	----	----	---	---	---	-----	--



鉱泉にはアイスクャンディの残骸が残る



山頂は占拠されていた



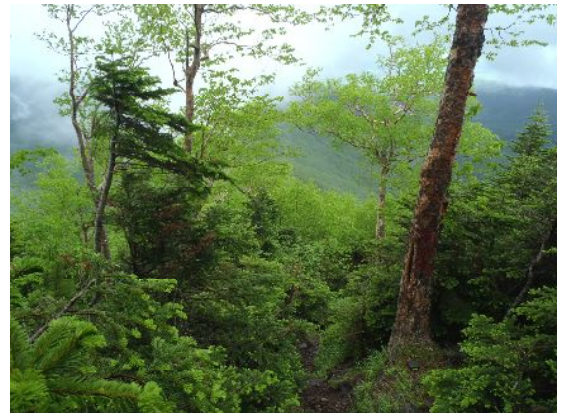
雨露をつけたコマクサ。硫黄山荘～稜線の  
辺りに群生してた



御小屋尾根の下り。悪い



稜線まで続く防護柵。登山道の雰囲気が変わ  
ったように感じた



御小屋尾根は鬱蒼とした樹林帯